

忘年山行（弓立山）報告書

- ・日程 2024年12月14日(日)
- ・目的の山 弓立山 427m（ときがわ町）
- ・天候 晴れ 北風やや強い
- ・参加者 若林、渡辺（徹）、高橋（努）、小玉、稲越、鴨志田、野口、出口、朝井、齋藤（哲）、足立原、橋本、東、轟、小島、大室、金丸、立原、浅田、米山、平本（真）、平本（美）、市川、奥田、田中（利）、古川（SL）、坂倉（CL）
計 27 名
- ・行程 明覚駅 10：00→ 11：00 元保育園登山口→ 桃ノ木登山口からの尾根に合流
→11：40 男鹿岩→ 12：00 弓立山山頂 12：40→ 13：40 桃ノ木登山口
3時間40分 5.5km

今回の山行は、当初、明覚駅から金比羅山（バリエーションルート）を経由して、弓立山の元保育園登山口に向かう計画だったが、うれしいことに申込み人数が予想を大幅に上回ったため、安全を最優先に考慮し、当初のルートを変更することにした。計画のルートの金比羅山は急なアップダウンを繰り返し足元も悪いため、大人数でここを経由すると時間的に焦りが生じてしまうと判断、車道歩きは長くなるが、金比羅山は通らずに、駅から直接、弓立山の元保育園登山口に向かうこととした。

また、集合場所は基本ルートの明覚駅か、各自で弓立山山頂まで行って頂く山頂集合かのいずれかとした。山頂で全員が集まったのち、下山は参加者皆で桃ノ木登山口に下りた。

明覚駅から出発する19名と、山頂で集合した8名の計27名のパーティである。

【10:00 明覚駅出発】

快晴ではあるが、風が強いことが気になりつつも、日が当たる場所は12月にしては暖かい。全員が揃うのを駅の待合室で待ちながら、若林さんにご協力頂き、懇親会に参加される方から会費の集金をする。予定通り、10時ぴったりの出発。今回SL古川さんが膝の故障で登山ができず、車でサポートして下さることになった。山行を古川さんに頼ってしまっていたのでとても不安だ。



弓立山

まずは車道を1時間歩く。風が強くて体感10度を下回っている。早く山の中に入りたいと思う。途中、「弓立山登山口」と書かれた看板があり、そこは下山で降りてきた時の登山口で、行きでは使わないのだが、道を間違えているのではと不安に思われた方もいたようだ。

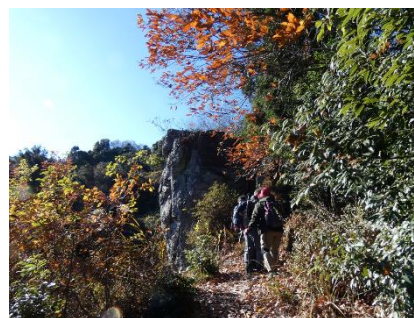
【11：00 元保育園登山口着】

予定通りに登山口に到着。少し休憩してから山道に入る。ここは道標も何もない道で、分岐でヤマレコの地図を確認したのだが、間違えて進んでしまった。後ろから指摘して頂き、すぐに引き返したので事

なきを得たが、気を付けなければと改めて思った。

本線に合流してからは、ゆっくりと全員の足並みが揃うようにペースを合わせる。特に遅れる方もいなく、落ち葉に足を滑らせないように慎重に足を運ぶ。急な岩場や歩幅が合わない階段などあったが、皆さん難なく通過していた。

男鹿岩→



【12：00 山頂到着】

予定より 30 分早く山頂に到着。先に着いていた山頂待ち合わせの 8 名と合流。全員で恒例の記念撮影をした。山頂からは澄んだ空気と快晴の青空の下、関東平野が一望できた。低山ながらも絶景だ。スカイツリーや赤城山なども見えるそうだ。山頂にトイレがあるのもありがたい。



30分強休憩を取り、今回の山行のフルメンバーで下山開始。山頂近くは急なところもあるので、気を付けて下山する。この季節、花が咲いていないのが残念だが、枯れた落ち葉を踏む感触や、見上げればまだ残っている紅葉、そこから差し込む日の光に、山にいる幸せを感じる。30人近いパーティなので、対向者に道を譲るために足を止めたその時にも、冬山を身体いっぱいを受け止める。

懇親会のお店のマイクロバスが登山口に迎えに来て下さるので、あまり早く着きすぎないように、ゆっくり調整しながら歩いていく。この間にも SL 古川さんが、お店で懇親会の準備をしてくださっていた。トランシーバーで常に現状を報告し、アドバイスを受け心強かった。

【13：40 桃ノ木登山口に下山完了】

27名の足並みが揃い、全員無事に下山。約束の時間より早かったが、お店の方が快く登山口までマイクロバスで迎えに来てくださった。古川さんの車と併せて、懇親会に参加されない方も全員がバスと車に乗ることができた。そうでないと車道を30分歩いて明覚駅に帰ることになるので大変助かった。

【懇親会】

参加者27名のうち、20名が明覚駅から徒歩3分の「割烹とき川」の懇親会に出席。

お店の1階が我々で貸し切りとなる。今回の参加者の中で最年長である米山さんのご挨拶と、最年少の若林さんの乾杯の音頭で開宴となる。私が「飲み放題ではないので」などと余計なことを言ってしまったせいで、謙虚な皆さんは遠慮してしまったのではないだろうか（これが今回の山行での一番の反省点。汗）。一人1分の自己紹介を聞きながら、お料理も次々と運ばれてくる。そして今回のお楽しみのオークション。最低1円、最高3,000円までで競り落とすルールだ。手作りお菓子、Tシャツ、プロテイン、ポストカード、手ぬぐい、手袋、アームカバー、ヤッケなどなど。高橋さん出品の30Lのミレーのザックが一番人気だった。電車の時間に合わせ、宴もたけなわの中お開きとなった。（皆さん十分飲めただろうか。心配）



そして、今回のオークションの寄付金と会費の余剰金は、ふれあい登山でお世話になっている「一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会」に寄付させて頂くことを、参加の皆さまにご了解いただいた。

後日、参加者の方に会計報告をした後、振込にて寄付をした。

ご参加の皆さまには厚く感謝の意をお伝えしたい。ありがとうございました。

以上
坂倉理恵

【参加者の感想】

■鴨志田隼司： 山登りほど老いも若きも四季を通して楽しめるスポーツはないだろう。しかし、事故を伴うことがある行為なのも事実である。だからこそ、日頃の山行で、山仲間とのコミュニケーションを養っておくことは大事である。

「忘年山行」や「新年山行」の際に持たれる懇親会は、山仲間にとってまたとないコミュニケーションの場であろう。例会山行では情報のやり取りが少ないので、こうした機会に持たれる何気ない会話から、その人となりが見え、山行歴や技量の一端を理解でき、山仲間としての意識が芽生えるようだ。

懇親会とは、広辞苑によると、“ねんごろに親しむこと、交際をあつくる会”とされている。普段会話を交わすことの少ない会員同士での交流の場である、「山友と登る」、互いに助け合う山登りにとって、懇親会というよりも親睦会が相応しいようだ。

今年の懇親会は山行サブリーダーの司会による巧みな進行で進んだ。親睦の義はいつもより和気あいあいに行われ、参加した20名の会員による自己紹介と食卓を共にする山仲間との談話は、山の情報や山道具の選び方などさまざまであった。また、5年ぶりのチャリティーオークションの復活は、山のグッズや日用品、手作りケーキを出品する人などさまざまで、特に目玉の高額ザックの入札・競り落としが、最後はジャンケンで決まったのにはビックリした。オークションの収益と会費残金は、「一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会」に寄付されました。風の強い冬の日でしたが、陽が落ちる前に心温まる気分で帰途についた。

忘年山行と懇親会を企画し実施された山行委員、社会貢献委員の皆様には感謝申し上げる次第です。

■市川順子： 私は埼玉支部にコロナ前に入会し、清掃登山、大高取山自然観察会に次ぐ3度目の登山となった。山行日であった12月14日は、晴れ渡ったものの、空気が冷たく木枯らしが吹く冬らしい一日であった。明覚駅に集合した20名近くによる移動となったため、当初のルートが変更され、車道を移動しながらの出発になった。風が強くと吹きすさぶ中、体感温度は低く、ダウンの中で身を縮こませながら歩いた。歩くこと30分弱で体は温まり、元保育園登山口の手前でフリースを脱ぎ、身軽になって山道に入った。枯葉を踏みしめ、張りめぐらされた木々の枝の間に足を滑り込ませながら上を目指した。自分の体重を足で受け止めながら無心になって登ること自体が心地よい。辿り着いた426.8mの山頂は眺望がよく、スカイツリーらしきものも見え、関東平野を一望しながらの昼食となった。山頂はその昔パラグライダーの滑空場があったらしく、開けた場所になっていた。先に山頂に辿り着いていた残りの10名近くの会員と合流し、長蛇の列を作りながら下山した。下山は楽かと思いきや、滑らないように時々、足を踏ん張る必要があり、切り立った岩々を右手に見据えながら下った。その岩の中に巨石である男鹿岩（おがいわ）もあったと思われる。どのようにして、こうした岩が林立している状況になったのか、その謎を知りたいと思った。登山道が狭いゆえ、対向者とすれ違うために、何度か踏みとどまる必要があったが予定より早い下山となった。桃ノ木登山口からバスに揺られ、5分ほどで懇親会場「割烹とき川」に到着した。刺身、煮魚、茶碗蒸し、うどんといった和食に舌鼓をうちながら、古川委員による挨拶、参加者全員の自己紹介に聞き入った。皆、楽しそうにご自身の登山歴を披露していた。その後、掘り出し物のオークションとなった。出品物は食べ物やウイスキーからTシャツ、写真集、Milletのザックと幅広く、全ての品が希望者の手に渡った。売上金は一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会に寄付されるという乙な企画であった。最後に坂倉委員からの挨拶を拝聴し、16時にはお開きとなった。胃袋も心も満たされ、幸せ

な気分です。帰路についた。今回の山行から 70 歳や 80 歳でも山を楽しむことができるという事実は私にとって大きな励みになり、もっともっと山の魅力を知ろうと決意を新たにしました。最後に企画し準備くださった委員の皆様、おしゃべりに花を咲かせ、楽しく登山ができた同行者の皆様に感謝申し上げます。